

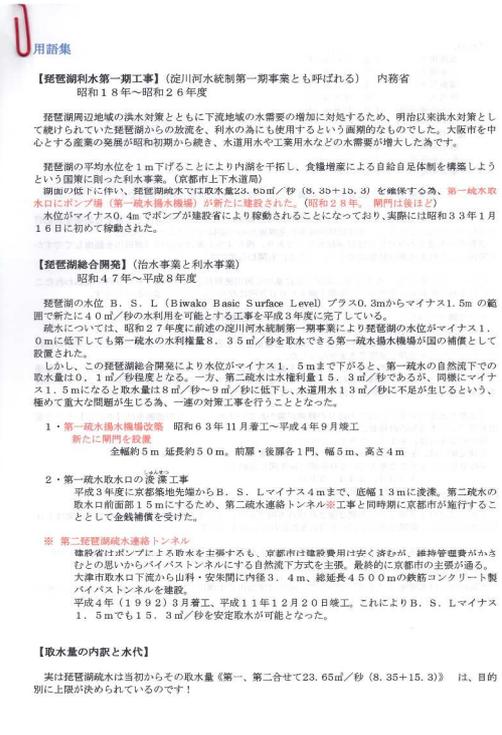
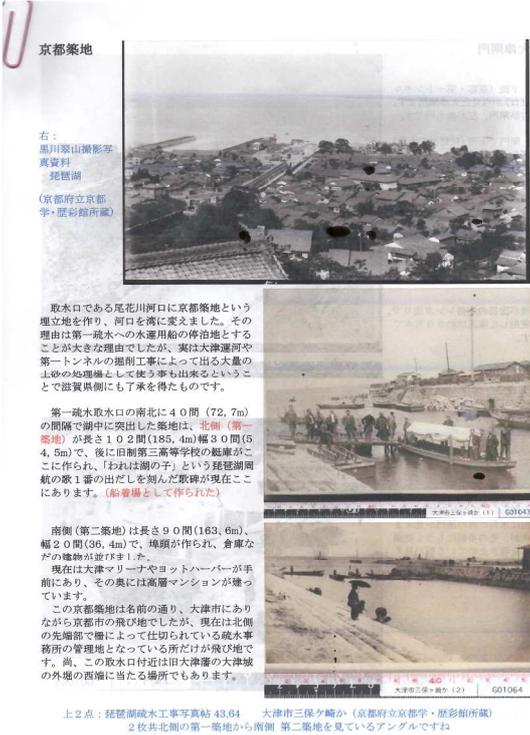
一般的な京都市民でした。

水に関してはお隣・滋賀県に琵琶湖があるのでこれまで断水制限などの経験もなく関係ないと思って生活してきたからだと思いますから・・・。

今回改めて琵琶湖疏水での初心者向けにと図書館やネットで調べ、これは参考になった！というのを「健康ウォーク & 歴史探訪」に反映させたのは以下の書籍等です。

- 1・京都インクライン物語 田村喜子/著 株式会社山海堂/発行 2002/2/28
- 2・琵琶湖から疏水を引いた人脈と技術 (近代日本の創造史 3号より) 石田三雄/著 NPO法人 近代日本の創造史懇談会/発行 2007/3
- 3・琵琶湖疏水の歴史散歩 琵琶湖疏水を語る部屋/執筆・編集 近代京都の礎を観る会/発行 2018/11/30

ここでは紙面の関係上、詳細を省略させていただきますが、是非これらを一度目を通していただくことをお勧めします。それ以外に参加者の方にパンフレットの他に参考資料として一緒にお渡したのが、以下の資料です。



上 ↑ 京都築地など建設工事中の貴重な写真類

(京都府立京都学・歴史館所蔵)

下 ↓ JR東海 そうだ 京都 行こう 観光ガイドより

上 ↑ 用語集 (行程表に出てくる三尾神社が大津側の

竣工式を開いた所など、各場所を解説)

下 ↓ 水のゆくえ/アケアカフェ2020資料より

第一トンネル 東口
 JR東海 そうだ 京都、行こう
 観光ガイド スタッフブログより <https://souda-kyoto.jp/blog/00352.html>



(京都市上下水道局・田邊家資料)

左
 第一トンネル東口を正面から見ると扉の奥には南と2.436m先の出口(西口)の明かりが見えるではありませんか! 真っ直ぐなトンネルだからこそですが、それにしてはスゴイ!

右:
 第一トンネルの西口手前7.41mの所にある第一整坑から差し込む光と滴水のシャワー。

トンネルの右側面の壁沿いに見えるのは上が電気のケーブル線、下は排水が上流の琵琶湖に向けて(疏水の流れるに逆らって)進む舟を引くためのロープです。考えてみれば当たり前のですが苦勞して舟を琵琶湖に運んでいたのですね



水のゆくえ/アケアカフェ2010

琵琶湖疏水: 疏水フィールドワーク (2) <https://cafeakcau.exblog.jp/14194843/>
 : 第一整坑 <https://cafeakcau.exblog.jp/14048850/>

上記京都市立芸術大学造形計画研究室が行ったHPより抜粋



2010年2月19日、排水管で水が引いた第一トンネルの中の様子です。河原は氷が付き、水が20cmほど残っています。
 人の大きさからこのトンネルの大きさが想像して頂けると思います。
 第一疏水のトンネルは諸別トンネルを除いて(昭和45年5月完成)全て同じ大きさです。



第一整坑を下から見上げた大変貴重な写真です。深さが4.7mありますが、構造は下の設計図のようになっています。断面は直径5.6mの内径です。上部から5.4m以下は東西3.15m、南北2.7mの楕円形です。
 掘削当初は土質が砂礫であったことから1週間ほど2mほど掘り下げたが、その後大崩れや湧水と次から次で問題が噴出。結局トンネル線路上まで掘り下げるのに196日も費やすことになりました。

